

～森の民話茶屋運営委員会～

平成24年5月

「ふるさとの民話を
あなたにつないで・・・」

森の民話茶屋通信

vol.22

▼震災後、全員が集合し再オープンを決意



▼地震で倒れた立て看板



店主スケッチの「森の民話茶屋」

発行責任者／森の民話茶屋店主 後藤 みづほ

福島県安達郡大玉村玉井字前ヶ岳国有林7林班 TEL:0243-48-4648

◆営業期間 4月下旬～11月中旬(土・日・祝日のみ) 団体(12名様以上)平日可能・要予約

◆営業時間 午前10時30分～午後4時30分

あの時から

平成二十三年三月十一日(金)午後二時四十六分。

忘れることの出来ないあの日の時、皆さんはどこで何をしていらっしゃいましたか？

大きな揺れは只事ではない揺れでした。そして長く続いて、その長かったこと。飛び出した人々の上に、揺れが収まったかと思っていると、まるで映画のワンシーンのような横殴りの吹雪が・・・その夜、停電の中でラジオから聞こえて来た「自衛隊と消防署の電源車が福島原子力発電所に向かっていきます」の言葉に一体何が起きているのか、不安が募りました。でも、その時はどこか遠い所の出来事としか考えていませんでした。

あれから一年が経ちました。住み慣れた日々の暮らしから一転、日常に戻れない沢山の方々に心からお見舞いを申し上げます。「森の民話茶屋」はお陰様で何とか営業を続けることができました。当分の間、休業せざるを得ないと考えていた店主にメンバーはもとより村当局をはじめ、お客様からの「今年は何日から始めるのですか？」の問い合わせに励まされました。でも、一番の原動力は「避難されている方々に十割そばを森の民話茶屋で振舞おう」という「じんだら会」(村有志の十割蕎麦の会)からの提案でした。丁度、FCTの「ゴジてれCHU!」から取材の申し込みがあったこともあり、例によって、『これは民話茶屋の天井に住む民話の神様が「大丈夫、負けないで出発なさい」という意向なのだ』と信じてスタートを切ることになったのでした。

それからメンバー総出で片付けが始まりました。看板が掛けてあった太い丸太が根元から折れ、食器や花瓶、お客様から頂いた大切な可愛い置物も飾り棚から落下、破損。大きな冷蔵庫が三十cmも移動していて揺れの大きさを物語っていましたが、幸いにも建物自体に大きな被害が出ませんでした。天井から下がった吊りランプ状の電灯も、たった二つの電球の芯が切れた程度で済みました。その片付けの様子とこれからの茶屋についての会議の様子も撮影が入り、いよいよ迎えた御もてなしの日が撮影本番当日。

四月二十四日は快晴。アットホームに避難している百二十名の方々への準備が始まりました。献立は打ち立て、茹で立ての十割そば、天ぷら(舞茸、なす、かぼちゃ)、豚汁、漬物数種。じんだら会の方々もさすがに手際よく時間通りに出来上がりました。避難している方々が次々に来店。語らい味わい笑い合う様子が撮影も順調です。「元気が出たよ」と避難所に帰って行かれました。

その取材VTRが四月二十八日の夕方放映され、翌二十九日の再オープンには「テレビを見ましたよ」と大勢の方々に来ていただき、中には「涙を流して見ましたよ」と話して下さるお客様もいらっしゃいました。(十割そばの注文もあり弁明に必死でした)

こうして始まった一年でしたが、被災地全部がそうであったように来客数は激減。関東圏からの団体は皆無でした。でも、こんな大変な時にもおいで下さり、あの時からの無事を喜び合ったり、慰め合って再来店を約束してお帰りになられるお客様との触れ合いや絆は一層強くなったように思われます。今年もまた、皆様の癒しの場所になれるよう食材の安全検査を徹底し、手間を惜しまないおふくろの手料理を準備してメンバー一同、皆様のご来店をお待ちしております。

平成二十四年五月吉日

店主 敬白



民話を聞く南相馬市からの家族

4月27日 福島民友新聞より

民話茶屋あれこれスナッフ

“じんだら会”による蕎麦打ちイベントは再オープンの大きな力となりました・・・



▲プレオープンの様子がテレビ放送されました。



▲ じんだら会会長 鈴木正雄さん

うまいものまつり

昨年秋に開催された“うまいものまつり”に出店し、多くの方が来店してくれました。



▲出店のようす



▲ 抹茶 おいしいね♪

関東から団体様ご来店

震災から1年経過した今年4月
関東から大型バスで37名のお客様に
ご来店いただき、多くの励ましの言葉を
いただきました。



▲皆さん、民話に聞き入っていました。

お花 ありがとうございます

昨年の5月7日(母の日)に二本松の
阿部さん、上田さん、渡辺さんの
仲良し3人娘からカーネーションの
鉢植えをいただきました。

ありがとうございました。



心のふるさと大玉村

今、郡山の地から半年前を振り返る時、アットホームの皆さんや民話茶屋の皆さんの温かい笑顔や、かけていただいた言葉は、一生忘れることはできないでしょう。本当にお世話になりました。感謝の気持ちでいっぱい
です。

